

KOA森林塾

E-05-17

手入れが十分でない人工林を何とかしたいと、1994年に始まったKOA森林塾。山造りの楽しさを伝えるこの講座に、これまでに36都道府県から629名（延べ979人）の方が参加してくださいました。

山造りの考え方や技の伝承

● いま、ふるさとの森は……

日本は国土面積の約3分の2が森林でおおわれている世界でもまれな森林国です。約6割は天然林ですが、残りの約4割に当たる1,029万haはスギ、ヒノキ、カラマツなどの人工林です。これら成長の良い針葉樹は、ほとんどが戦後の1950年代以降に植えられたもので、順次収穫期を迎えつつあります。しかし中には間伐などの手入れが停滞し、建築用材とならないばかりか、期待される公益的機能を果たせない森林も増加中です。

もともと森林には、その成長過程で大気中の二酸化炭素を固定して地球温暖化を防止したり、また成熟段階になると、樹木の根や灌木が土砂や岩石を固定して崩壊を防ぎ、雨水を一時的に蓄えて洪水を緩和するなどの働きがありますが、手入れ不足の森林は根が浅く、表土がむき出して、近年頻発するゲリラ豪雨と相まって山地災害の防止機能が果たせません。

KOAのふるさとである伊那谷においても例外ではありません。この手入れ不足の人工林を何とかしなければ、という思いで保科孫恵先生、島崎洋路先生を講師にお迎えしKOA森林塾は1994年に開講されました。



木の太さや高さを測って現状分析をし、手入れの方針を決めます。



安全なチェーンソーの使い方を練習します。



確実に狙い通り木を伐る方法を学びます。



伐った木は運び出し、利用します。

● KOA森林塾の願い

1. 地域の小規模山林主に山造りの基本的な考え方と、基礎的な技術を身につけてもらい、自分の山を十分に手入れしてもらいたい。
2. 地域内外の山をもっていない人にも、山造りの基本的な考え方と技術を身につけてもらい、必要なときや要請を受けたときに、それを生かして山造りをしてもらいたい。
3. 地域や日本の森林の現状や施策を、関心のある人に知ってもらいたい。
4. 誰もが山に入り山の手入れをする。その楽しさと素晴らしさを知ってもらいたい。
5. 森林の問題を通して、今の自分たちの生活を見直す機会をもってもらいたい。



保科孫恵さん

保科さんが本格的に林業経営に携わったのは太平洋戦争後の昭和30年ころから、父の代に20ヘクタールほどだった山林を次第に広げていった。昭和36年、長谷村長谷中学校新築に際して保科家の農地が補償対象になった時も、村から譲り受けたのは戸台地積の村有林である。今そこは胸高直径50センチメートルを超えるカラマツ林に育っている。（『おーい、山へ行こうよ』より抜粋）
1994年～2014年森林塾講師



島崎洋路さん

元信州大学農学部教授。保残木マーク法、列状間伐など独自の間伐法を用いて日本全国の手入れが停滞している人工林の解消を目指し、「山の赤ひげ先生」と呼ばれた。退官後一人親方として「島崎山林塾」で押しかけ弟子たちの指導にあたりるとともに、KOA森林塾の講師、豊田森林学校々長などを務め、2013年、KOA森林塾や矢作川水系「森の健康診断」などの功績により国土緑化推進機構の「みどりの文化賞」を受賞。
1994年～森林塾講師。現在は非常勤



早川清志さん

1994年のKOA森林塾開講から事務局を務め、2005年からは講師も兼ねる。その穏やかでわかり易い語りには定評がある。懇親会でのアカベラには多くの塾生が閉口しているようだ。山菜採り、キノコ狩り、カヌー、登山、スキー、家庭菜園と、休日も野外に出没する頻度は高い。

KOA森林塾に参加された塾生さんたちの中には、その後も山林と深く関わって活躍されている方が少なくありません。

● 川島潤一さん（山造り舎・長野県林業士会）

～ 上伊那の山造りシーンを牽引する若大将 ～



1967年福岡県生まれ。学生時代はサイクリング部で全国各地を巡る。住宅建材会社の営業職で赴任先の長野市や佐久市で山造りの魅力に目覚め、北・南アルプス、八ヶ岳などを歴訪。自然の中で仕事をしたいという思いがわく。札幌、東京勤務を経て、1998年に飛び入りで参加したKOA森林塾で保科さん、島崎さんに日本の森林の現状を聞くにつけ、「荒れた日本の山林をよくしたい」とスピニアウト。林業の世界に身を置くことを決心し、夫婦で駒ヶ根市に移住する。翌年、島崎さんに弟子入りして山仕事の教えを乞う。

1年後に独立し、山林手入れを請負う『山造り舎』代表として起業、現在に至る。KOA森林塾講師、長野県林業士会会長、上伊那林業士会会長、長野県フォレストワーカー研修講師、長野県みどりの基金理事など。後継者育成にも力を入れ、なかでも上伊那林業士会が行う上伊那農業高校緑地創造科のチェーンソー研修を受けた生徒さんは10年間で400人に及び、このうち約7%が進学、就職先に林業関係を選択している。



上伊那農業高校チェーンソー研修

● 西村智幸さん（森の座）

いざな
～ 町の人を森へと誘う案内人 ～



1974年長野県生まれ。東京の専門学校で情報処理を学ぶ。その後伊那市に戻り家業の葬祭社を継いだが、2002年、書店でたまたま手にした島崎先生の『山造り承ります』を読み、森林・林業の世界に足を踏み入れる。その年から家業のかたわらKOA森林塾、さらには長野県林業士の研修に通い、この地域の人工林が手入れ不足であることを実感し、山林整備を始める。仲間と始めたボランティアグループを改組し、2005年にNPO法人『森の座』設立、会員は現在20人を超える。

地域の森林所有者が胸を張って森林を次世代に引き継げるよう支援することと、地域の木を有効に利用するよう提案することをミッションにしている。地元の工務店とコラボで「自分の山の木で家づくり」プロジェクト、薪やアカマツのフローリング材の生産販売、寺社での障害木伐採など活動は多岐にわたる。さらに木工教室、伊那谷ブナの森ツアーの開催など一般市民向けの多彩な啓発イベントも手がける。



伊那谷ブナの森ツアー

森林塾通信のご案内

毎回の講座のレポートや塾生さんによる「リレー通信」など、KOA森林塾の様子をライブ感たっぷりにお伝える「森林塾通信」がホームページよりご覧いただけます。

<http://www.koaglobal.com/corporate/csr/forest/report2016>

